

いもう 葦毛通信



カザグルマ

平成 27 年 6 月 1 日
豊橋市文化財センター
TEL : 0532-56-6060

No. 23

1、平成 26 年度植生回復作業のまとめ

平成 26 年度は L 地点から作業を始め、M→N→J 地点へと進みました。主な作業は、木の伐採と除草です。木の伐採は、常緑樹を中心に伐って明るい森にすることを目的にしました。また、M→L→E→C→G 地点の順番で、バックホーで木の根の抜根を行い、ネザサ・コシダの根を剥ぎ取り、土を剥ぎ取ったところの上流部に播き出しました。

平成 26 年度の木や草の搬出作業は順調に進み、今回の作業で出たものは、すべて処理することができました。パッカー車で焼却処分にした分は、延べ 5 日間、搬出回数は 14 回、総重量は約 16 トンでした。薪にできるものは別途搬出していますので、おそらくこれを合わせて 20 トン以上は処理できたと思います。

なお、平成 26 年度の植生回復作業は、平成 26 年 11 月 4 日（火）から平成 27 年 3 月 31 日（月）まで、延べ 24 日間で（作業は午前中のみ）、延べ 501 名の参加がありました。

平成 26 年度に行うことができた作業の概要は以下の通りです（各地点の位置は葦毛通信 No.5 参照）。

C・E地点

作業面積：約 1, 000 m²

作業内容：バックホーにより、抜根とネザサ・コシダの根の除去を行い、土を上流部に播き出しました。

課題：草地化し、乾燥化するので、外来種の定期的な除去が必要になります。



C 地点（東から）

G地点

作業面積：約 600 m²

作業内容：バックホーにより、抜根とネザサ・コシダの根の除去を行い、土を上流部に播き出しました。G-1 地点は、コシダのマント群落だった部分を削り、表土を東側に播き出しました。G-2 地点の島状部は、抜根後に表土を削り、湿地東側に播き出しました。G-3 地点はわずかに高くなった湧水線近くの砂礫層を一部分で薄く剥ぎました。

課題：G-1 地点の湿地沿いは湿潤になっていますが、土を播き出した東側はやや乾燥気味です。外来種が侵出してくる可能性もあり、注意が必要です。また、今後、南側の一の沢の木の伐採が必要です。



G-1 地点（北から）

J地点

作業面積：約600㎡

作業内容：木道西側（左側）の常緑樹を伐り、明るい森にしました。南側が湿地中心部で、木道が水道に沿っていることが確認できました。一部で小さな沢状になって水がしみ出しているところがあり、30年以上確認できなかったサワオグルマが復活しました。今年は花が咲きませんでした、来年は咲いてくれることでしょうか。また、明るくなることにより、林縁部の沢沿いでミカワバイケイソウが7本確認でき1本は開花しました。

1×1m程の実験区を湿地に近い南側から北側の自然歩道までの間に8カ所（J-2～9地点）設定して、表土を剥ぎました。低くなって冠水したところは溝を切って排水できるようにしました。各地点では、湧水の量や鉄分含有量に違いが見られました。

自然歩道沿いには昆虫の観察のため、伐採した木を積み上げました。豊橋市自然史博物館の学芸員が定期的に観察を続ける予定です。

課題：明るくなることにより昆虫が増えるという指摘が、豊橋市自然史博物館の学芸員からありました。また、特定の昆虫が大発生する場合もあるということで、今後、観察を続け、その影響を確かめる必要があると考えています。



J地点（北から）



復活したサワオグルマ

K地点

作業面積：約10㎡

作業内容：ネザサの根を2×4mほど除去した実験区を設定しました。剥ぎとった根は、水で洗って土はその場に残すようにしましたが、ネザサの根は持ち出さず、上流部に積み上げてあります。

課題：前回の実験区は土が流れて裸地化しましたが、今回の実験区は、土を残すことを目的にしました。前回の結果と比較して観察を続け、埋土種子から発芽する植物に違いがあるのかを確認するつもりです。



K地点実験区（北から）

L地点

作業面積：約1, 200㎡

作業内容：常緑樹を中心に伐採し落葉樹を残して明るい森にしました。南側三分の一の野沢原生林あたりは作業が行えなかったため、今年度作業を行う予定です。根はバックホーで抜根し、まとめて積み上げてあります。一年間雨にたたかして土を落としてから、今年度搬出して処理する予定です。

明るくなることにより、ミカワバイケイソウが明らかに増え、L地点だけで340本を確認しています。開花した個体は無く、小さな個体が目立ちます。2～3年後には栄養分を溜めて花を咲かせてくれることでしょう。

課題：表土層（腐葉土層）が厚く堆積している部分もあり、今後どの程度除去するのかを検討する必要があります。表土層を除去することにより、石がゴロゴロした裸地の湿地に戻る部分があることは、これまでの作業結果から確認できます。



L地点（北から）

M地点

作業面積：約500㎡

作業内容：西側は常緑樹を中心に伐採し、落葉樹を残して明るい森にしました。東側はクロミノシゴリやノリウツギ等の湿地性の木を残し、林縁部の木を伐採してコシダ群落を除草しました。湿地性の木があるところまでが湿地に戻る部分と考えています。E地点と接する島状部は残して経過を観察することにしました。

課題：島状部も多様な環境の一部であり、すべて除去するのではなく、各地点で選択的に残す部分を検討する必要があります。また、積み上げた木の根についている土から、ミカワバイケイソウ、ミズギボウシ等が発芽しました。頂上付近で発芽したため乾燥しており、ミズギボウシは元気が無くなっています。根についた土はできる限り落として地上に置くようにした方が良いでしょう。次にバックホーで作業を行う時には、根をつぶして、土を十分に落とすようにしたいと思います。



M地点（西から）



積み上げた木の根（東から）



木の根の山から発芽したミズギボウシ



木の根の山から発芽したミカワバイケイソウ

N地点

作業面積：約600㎡

作業内容：一部を残し、島状部の除去を行いました。林縁部は湿地性の木を残し、他の木の伐採とコシダやネザサ群落の除草を行いました。ネザサの根を除去した実験区を造り、根は剥ぎ取ったところの北側に積み上げました。

K・I地点との交差点付近の大きな島状部を除去し、表土を剥ぐ深さや方法を変えた実験区を4カ所造りました。剥いだ土は現地に積み上げています。旧水田の畔が確認でき、畔を中心に乾燥化してコシダ群落が優勢になっていたことが分かりました。

課題：林縁部のコシダ群落のところは、植物の発芽が少ないと考えられ、湿地に戻すためには表土の除去を検討する必要があると思います。

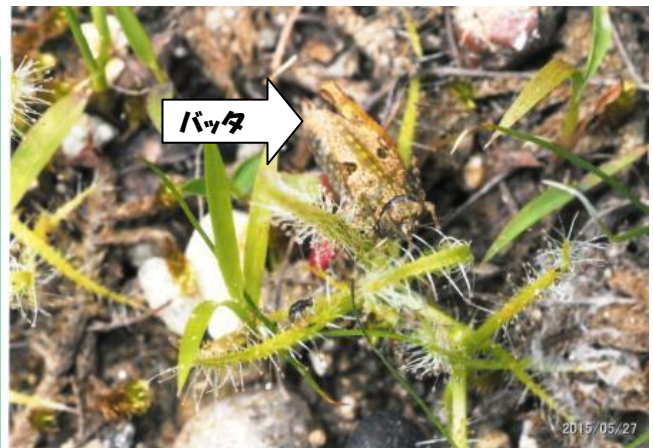


N地点（西から）

ナガバノイシモチソウが 成長しています。

ナガバノイシモチソウが少しずつ大きくなっています。食虫植物なので小さなバッタを捕まえました。小さな体でうまく消化できるのでしょうか？

5月25日現在で2,000株以上が発芽しています。昨年よりかなり多くなるようで、順調に増えることを期待しています。



バッタを捕えたナガバノイシモチソウ
(2015年5月27日、撮影：星野清治)